



APAY eNews

翻訳: 永岡美咲(日本YMCA同盟)

YMCAグリーン・チャレンジ 2013 開催!

2013年10月18日~31日



10月18日~31日にアジア・太平洋地域のYMCAで行われる「環境への意識が個人そしてYMCA・ワイズの核心になるように」をテーマとしたYMCAグリーン・チャレンジは、若者や地域コ

ミュニティーの参加を促し、社会に対する責任について気づいてもらうという目的があります。アジア・太平洋YMCA同盟(APAY)の主要な関心領域は、環境への配慮です。地球市民として、私たちは周囲の自然をいたわり、次の世代のために保護しなければならないのです。

10月後半の2週間、さまざまなイベントがアジア・太平洋地域の数百か所のコミュニティで行われる予定です。YMCAは、それぞれの地域でのイベントを主催し、会員や近隣の方を招き、環境保護プログラム・プロジェクトや取り組みについて紹介します。

ワークキャンプ、道路清掃、植林、啓発活動、カーボンゼロ(炭素ゼロ)の取り組み、展覧会、絵画コンテストなど、さまざまな環境保護活動を行うことで、多くの人の参加を促し、アジア・太平洋地域のYMCA共通の取り組みとして、できるだけ多くの緑を入れて写真撮影を行いましょう。YMCAでは、若者たちが環境問題について関心を持ち続けられるよう学びの機会を提供し、働きかけをしています。このことは、ユースをエンパワーし、コミュニティを変革するためのツールなのです。このグリーン・チャレンジの取り組みを行うことで、各地域のユースにYMCAのことが知られ、そのユースがYMCAにかかわることでエンパワーされ、地球市民となるのです。各YMCAにとっても、各地域のユースと出会う機会となり、また、YMCAの存在感を発揮できる機会となる

でしょう。

グリーン・チャレンジの取り組みに参加されたYMCAには、APAYから電子参加証を授与します。

YMCAユース・カンファレンス(インド)

Roger Peiris



YMCAユース・カンファレンスは、人生・生活やコミュニティの変革を目指したインパクトやアクションに気づくことを通して、若者が自分たちの能力

について共有し、探り合い、絆を強化し、社会の現実に自らかかわる機会となります。YMCAユース・カンファレンスは、2013年8月23日~28日、インドのイェラギリ・キャンプで行われました。バングラデシュ、香港、マレーシア、インドネシア、モンゴル、スリランカ、東ティモール、ベトナム、ドイツ、ブラジルとインドから120人が集いました。今回のテーマは、「友情、文化の追求、ソーシャル・アクションを祝って(Celebrating Friendship, Cultural Pursuit and Social Action)」であり、このカンファレンスは、アジア・太平洋地域の若者にとって友情の喜び、文化の追求、ソーシャル・アクションを祝い、分かち合う機会となりました。このテーマはとてもユニークです。友情は新しい人生の始まりとなることからとても重要なのです。友情とは、手と手をたずさえともに歩むことであり、全能の神が、私たちの社会を取り巻く人々のために行動ができるよう、似通った心構えとビジョンを与えてくださいました。



参加者は、よりよい未来や世代を目指して、強い友情を築きながら、人生や生活

を変革すること、コミュニティーを変革することに焦点を当ててカンファレンスに臨みました。カンファレンスで行われたワークショップのサブテーマは、友情、文化の追求、ソーシャル・アクションでした。リソース・パーソンは、これらの課題に関して、参加者の理解を促しました。さまざまな国からの選ばれた参加者数名が、このサブテーマについて考えを述べる機会となるオープン・スペースを設け、ワークショップ中のそれぞれの参加者の個人的な経験をシェアしました。

YMCA活動紹介は、参加者が APAY の重点事項や最近行っている活動について学ぶことができる正式かつ特定の時間となりました。グローバル・オルタナティブ・ツーリズム・ネットワーク、YMCAグリーン・チャレンジ、気候変動やユース委員会のプログラムが紹介されました。

ユース・カンファレンスは、若さ、私たちの文化、伝統、信仰の多様性や豊かさを祝うものでもありました。カルチュラル・ナイトは、参加者がパフォーマンスを通してそれぞれの国の文化について共有し、示す機会となりました。

朝の礼拝、森のトレッキング、植林やヨガによる瞑想は、このカンファレンスの創造的な要素であり、また、ボン・ファイヤーやボリウッド・ダンス・セッションはユースをさらに元気づけるものとなりました。

エクスポージャーでは、正義や平和を追求するために格闘する周縁化された家族やコミュニティーと、短い時間ながらふれあい、過ごすことができました。

YMCAは、169年間コミュニティーに奉仕しており、若者のエンパワーメントが、YMCAの最優先事項です。YMCAユース・カンファレンスはユース・エンパワーメントをさらに広める目的で企画されています。そしてまた、それぞれのYMCAがある社会に参画できるよう、若者の精神を再び活気づけるものとなっているのです。

各国から集ったユースは、それぞれのユース・エンパワーメント、リーダーシップ・トレーニング、Uni-Y や Campus-Y の活性化に関するアクション・プラン（行動計画）を共有し、地域のYMCAユースとつながり続けることに取り組んでいます。また、2013年10月18日～31日に行われる APAY ユース委員会発信のグリーン・チャレンジに参加することも決めました。



アジア・太平洋地域学生・ユース会議

Roger Peiris



アジア・太平洋地域のクリスチャンの若者・学生・社会人が、仲間の絆や連帯という考えをもち、8月30日から9月5日にフィリピンのリサール(Rizal)州タイタイ(Taytay)のブカル・ン・ティパン(Bukal ng Tipan)で行われたアジア・太平洋地域学生・ユース会議 (Asia-Pacific Students and Youth

Gathering: ASYG)に集いました。アジア・太平洋エキュメニカル学生・ユース・ネットワーク(EASY Net)は、アジア・キリスト教協議会(CCA)、APAY、International Young Christian Workers (IYCW)、International Movement of Catholic Students (IMCS)、世界学生キリスト教連盟—アジア・太平洋地域(WSCF-AP)、YWCA、International Young Catholic Students (IYCS)という7つの加盟団体から構成され、香港基督教協進會(Hong Kong Christian Council)、香港基督徒

學會(Hong Kong Christian Institute)、インドネシア教会協議会(Communion of Churches in Indonesia)も加わっています。

正義と平和は、現在、アジアの若者が求めているものです。ASYG には、アジア・太平洋地域の 20 か国から集った 150 人の代表が、真の正義や持続する平和の触媒となることを目指し、強められ、再び活性化したエキュメニカルなユース運動を目指して、さまざまな生活にかかわる課題を持ち寄りました。

ユースたちは、すべての創造物を結び付ける神の愛のもとに集いました。正義と平和を求め働くをなすという神のクリスチャンへの召命に導かれ、多様なコミュニティの中でさまざまな会話や意義深いつながりを通し、私たちはともに祈りをささげ、私たちが格闘してきたストーリーを分かち合いました。またアジア・太平洋地域の豊かさを彩るユニークで多様な背景や文化を分かち合いました。ユースは心を開くことができ、私たちの共通点と相違点の関連や交わりから刺激を受けました。ともに時を過ごすことによって、生や尊厳を勝ち取ろうと苦闘する人々と、ともに連帯することを理解しました。

また、フィリピンのさまざまなコミュニティへのエクスポージャーを通して、苦境に立たされた人々を目の当たりにし、彼らの声を聞きました。彼らは周縁化され、傷つけられ、搾取されています。都市に暮らす貧しい人々の日常生活は、権利の剥奪と、困窮による苦闘そのものです。ユースや学生のさらなる教育は、商業化、植民地化、ファシスト化した教育そのものによって難しくなっています。また、政府の政策により、先住民は先祖代々受け継いだ土地から立ち退きを余儀なくされています。

アジア・太平洋地域全体で私たちが経験する不正義には、以下のように共通する点があります。憲法に規定があるにもかかわらず、特に貧しく抑圧された人々が教育、健康、住居といった基本的人権を侵害されていること。海外出稼ぎ奨励政策(labor export policy)がさらに極端に多くの失業者を出し、移住など不可避な現象を引き起こしていること。国家予算の横領や不正使用、不平等な新自由主義(ネオリベラル)政策が一方向的に押し付けられ、経済の逆行が進んでい

ること。そして軍事化など。

経済的な問題の他にも、アジア・太平洋地域の国々が社会問題を経験してきたことにも、私たちは気づいています。それらの問題は、宗教原理主義、軍事主義と核保有主義、ジェンダーの不平等、環境問題、民族的・宗教的マイノリティーへの差別などです。私たちのキリスト教の信仰が、神の国の実現を目指す私たちの具体的なアクションとして、「わたしの兄弟姉妹であるこの最も小さい者(マタイ:25 章 40 節)」の立場をとらせるのです。



リソース・モビリゼーション 2 年目研修(スリランカ)

Eroisa Borreo



リソース・モビリゼーションの 2 年目研修が、スリランカ・カラーのフォーク高校にて 9 月 14 日～

15 日に開催され、15 人が参加しました。最初に、ボランティア・コンサルタントの Ron Coulombe 氏と Jessica Rawn 氏から昨年の参加者に対し、それぞれの YMCA で資金集めの取り組みが新たに行われているか尋ねられました。ボランティア・コンサルタントの 2 人は異なる背景を持つカナダやアメリカ出身のため、APAY のリソース・モビリゼーションの学びのプロセスでは、ワークショップが開催される場所に関する簡単な情報や、どのように目標金額が設定され、1 年目のアニュアル・キャンペーン(訳注:一般的には、毎年実施される、非営利組織の一般的な経費のための寄付キャンペーン

を指す)でどれだけの金額が集められたか、参加者が概要を示しました。彼らが提示した数字や金額が、このワークショップ中に再検討され、更新されました。参加者がこのワークショップで達成したいことについて簡潔に話した後、1年目のアニュアル・キャンペーンに関する情報交換や評価がなされました。1年目の評価では、ケース(訳注:募金を集めるためにYMCAから支援者に語られる実際のプログラムや事例)、ボランティア(レイパーソン)によるリーダーシップ、寄付を期待できる人々、必要な土台(寄附者を導く責任、目標と結果を集計し追跡すること、寄附者の情報を集めておくこと)や計画からの学び、成功事例、課題に関するすでに提出され、提示され報告がなされました。寄附者を導く責任(stewardship)が重要な理由や寄附者を導く方法のプレゼンテーションやディスカッションも行われ、参加者にとってよい学びとなりました。参加者から挙げられた課題は以下のとおりです。

- ・最初に寄付のお願いをしたときには断られたが、何回かお願いしたらうまくいった。
- ・夢であったプレ・スクールのプログラムを運営している。その働きを拡大する目標を達成するために動いていきたい。
- ・私たちは、プログラムの維持を支援し、より多くの子もたちにサービスを提供するために、寄附者を探し、見出さなくてはならないのかもしれない。
- ・プレ・スクールのの拠点を充実させるために、寄付を続けたいという支援者がいる。
- ・農場の土地を購入することができたが、トラクターを購入することができるまでには、さらに 140,000 ルピーが必要である。

会が進むにつれ、参加者は、取り組みをさらに改善することを目指して、さらに課題や成功例を共有したいと感じるようになりました。

レイ・リーダーシップ(キャンペーン・ボランティア)に関するプレゼンテーションが行われ、キャンペーンの構造(ボランティアとスタッフの役割、役員の役割、チームを拡大するためにボランティアを見出し、リクルートすること)について強調して説明されました。キャンペーン・ボランティアを見出

す練習方法と、キャンペーン・ボランティアをリクルートする練習方法が紹介されました。ボランティア・コンサルタントの Ron 氏と Jessica 氏は、キャンペーン・ボランティアのリクルートの仕方を示すため、「ボランティア・リクルート」と題したロールプレイを行いました。参加者は自分たちでも練習することを求められました。続いて、それぞれのYMCAがどのようにすれば新たなキャンペーン・ボランティアを引き付けることができるかについてグループ活動が行われ、プログラムのインパクトやツールを見出すことが必要であると説明されました。2年目研修の最後には、キャンペーン・ボランティアの力を用いながら、内なる円(訳注:リソース・モビリゼーションで最も重要なカギとなるYMCAの総主事や理事等役員)の外にいる多額の支援者やその支援者からの寄付、寄付を期待できる人々を探す方法に関するセッションでした。「寄付をお願いするのに最もよいタイミングはいつか」という事例のロールプレイと、オブザーバーからのフィードバックが行われました。



さらに2日目の午後に行われたトレーナー対象の研修では、リソース・モビリゼーションのより高度な考え方について、紹介されました。参加者の中には、YMCA内のリーダーシップ変更によって1年目の研修に出ていない人もおり、大きなトピックを理解するのを難しく感じていました。このセッションの次には、9月16日~17日、ジャフナの Panderrupu へのフォローアップ訪問を行い、今回のケース(寄付のための事例)を通して支援を受けている地元のリーダーや農家の人々とボランティアが直接顔を合わせることができました。2年目研修の報告は、新たに行われます。

9月18日~19日、パムヌガマYMCAで行われた1年目研修は、Jessica氏が直接参加者との質疑応答を行い、さま

さまざまな演習をこなし、参加者がケースを開発するにはどうしたらよいか学びを得ることができるなど、成功裡に終わりました。コミュニティーのニーズ分析やケースを通じた計画作成を行う方法を指南しました。ビジュアルや表を用いた実用的なセッションは、効果的で、特に同心円(訳注:内側の円がYMCAと深いかかわりを持つ人。外の円になるにつれ、YMCAとのかかわりが薄くなる)の考え方について、参加者がなぜYMCAが好きなのか学び、分かち合いました。表の「ビフォー」と「アフター」に自身を置きながら、なぜまず最も中心に近い人の心に寄付を求める必要があるのか理解しました。寄付のお願いの仕方、目標設定の仕方、最初のアンニアル・キャンペーンの立ち上げ方を学び、演習を行いました。目標は51,000ルピーとされ、キャンペーン開始のお祝いでは24,000ルピーが寄付されました。とても印象深かったのは、参加者8人全員が20歳~35歳の若者であったことです。その中には、このYMCAの28歳の会長と28歳の総主事といった、主要なリーダーも含まれています。

総主事デスクより...

ミャンマー北部、カッチン州を訪ねて

アジア・太平洋YMCA同盟総主事 山田公平

2011年以降、ミャンマー政府の民主化政策への転換が、世界の注目を集めています。このような急激な変化と世界中からの関心が向けられている一方、国内では大半を占めるミャンマー民族と他の少数民族との間で紛争が起きています。特にミャンマー北東部の中国国境沿いにあるカッチン州(カッチン民族で9割以上がキリスト教信者)では、ミャンマー政府のカッチン州における独裁的な政治に反発をし、独自の軍隊をもち、2011年から政府軍とカッチン民族軍の間で紛争が起きています。その結果、国境沿いに住んでいたカッチン民族の多くが国内難民(Internal Displaced People)となり、中国国境沿い、およびカッチン州の中心都市ミチナにもIDPキャンプができ、IDPの総数は10万人を超えています。

カッチン州とミャンマー政府との争いにはそれなりの理由があります。ミチナYMCA総主事であるグンシャウ氏が丁



寧に説明してくれました。

1. 中国国境沿いに大きな川が流れており、水量も非常に多いところですが、そこに電力供給(主に中国からの需要に応えるため)を目的とした大型水力発電用のダムを作ろうという計画が、中国とミャンマー政府の間で進められています。その話し合いに、地元のカッチン州ははずされており、地元住民の立ち退きは強制的に進み、川や森といった自然資源も破壊され、ダム建設への反対運動として起きてきました。この地域にはヒスイや金、木材などの貴重な資源もあり、それらの資源開発は中国側が行い、利益はミャンマー政府に入るということにも怒り、2011年からカッチン民族軍と政府軍との間に紛争が始まりました。
2. この紛争により国境付近の66箇所の教会は焼かれ、国内難民(IDP)の数は10万人を超えるものになりました。彼らの半分以上は中国国境付近に避難し、残りミチナなど近郊の都市に避難しています。ミチナYMCAは市内にある3つのIDPキャンプで子どもたちの教育支援をしています。
3. この地域は、ヘロインの材料になるケシの栽培地として適しているとも言われており、その結果、大量の麻薬がここから流れ、特に若い人たちに麻薬患者が急増しているということです。麻薬を販売するディーラーも多く、特にカッチン民族への販売に関して、政府は何も規制をしていないというショッキングな事実を知らされました。最近の情報では、カッチン州にある大学で60%以上の男子学生、10%の女子学生が日常的に麻薬を使用していると言う事実も知らされました。これはカッチンだけでなく、南に位置するシャン州(少数民族)にも影響が及びつつあるという話です。
4. 本来なら警察が、麻薬の使用や、麻薬販売人を取り締まるのが普通ですが、警察は中央政府の管轄であり、その警察が、麻薬販売人の動きを黙認しているということも今回の話で出てきました。したがって、カッチン州の若者にとり、麻薬を入手するのはいとも簡単で、それが麻薬汚染を進めてきたということです。カッチンの人たちは、これは政府がカッチンの反政府運動を削ぐために意図的にしているという声も聞かれました。
5. そんな中であって、地元のキリスト教団体は、麻薬患者のリハビリのため、40日間のトリートメント合宿を行っている。今回はその現場を訪ね、そこにいた57名の男性麻薬患者と対面することができた。しかし、政府は一切麻薬撲滅のための活動をカッチン州では行おうとしていない。

この事実を知らされ、私たち訪問団はかなりショックを受けました。YMCAは、青少年が直面している社会問題に対して、何をすべきか、考える必要があると感じます。ミチナYMCAに集う若者たちとも話し合うことができました。なぜ、このような麻薬汚染が広がっているのか聞くと、

1. 80% の若者に仕事がなく、将来への希望が持てない。
2. 多くの人たちが、現金が即入金やヒスイ採掘現場で働きに出て、家を留守にすることが多くなり、その結果として子どもたちが麻薬に走ってしまうことにつながっている。
3. 麻薬は簡単に、しかも安く手に入る。
4. ミャンマー政府、警察も麻薬販売などへの取調べがほとんどされていない。
5. 政府と警察、そして麻薬を取り扱うグループとの間に賄賂が払われていて、麻薬対策のために動けない状況にある。

<APAY からの提案>

これらカッチン州における麻薬に関する事実はさらに検証する必要があると感じています。YMCAとしてカッチン州にあるYMCAとミャンマー同盟、さらには国際社会も含めて共にできること、すべきことを提案していきたい。そのために、

1. 国際調査団を組織して、カッチン州の現実を調べ、YMCAとして国際、ミャンマー国内、さらにミチナなどローカルYMCAでできることを提案していく。
2. 麻薬問題は世界的にも広がりつつあり、他の地域での他の NGO などを含めた成功事例なども含めて、カッチンでの麻薬問題に対して、提案をしていきたいと考えている。
3. 麻薬問題はカッチンに限ったことではなく、多くの都市で同様に問題となっている。これは、開発途上国も先進国でも同様に深刻な問題となりつつある。もしYMCAとして成功事例を紹介できれば、将来への新たな分野での貢献につながって行くと考えます。

農村部コミュニティ開発プログラム（東ティモール）

Richard Kaing

APAY の運動強化担当コンサルタントの Richard Kaing が東ティモールを訪問しました。現地滞在中に、東ティモールの



のYMCAピース・コーヒー・プロジェクトの担当主任主事 Dong-Hwa Yang 氏にインタビューを行いました。このプロジェクトは、韓国YMCA全国連盟の支援を受けています。インタビュー内容の抜粋は、以下のとおりです。

いつからこのピース・コーヒー・プロジェクトが行われているのですか？ どのように場所を選んだのですか？

このピース・コーヒー・プロジェクトは2006年に石橋英樹さん(当時、東ティモールで働いていた日本のYMCAスタッフ。訳注：現在、大阪YMCAスタッフ)が始めました。韓国YMCA全国連盟が、東ティモールYMCAと協働で、サメとロウトという遠隔地にあるコミュニティーとかがわりながらフェアトレードを始めるために、石橋さんの助けを必要としたのです。サメは、東ティモールの中央部の山岳地帯にあります。涼しい気候で、品質のよいコーヒーを育てるのに適しています。

どのようにして、プロジェクトが始まったのですか？

2006年にプロジェクトを始めたとき、私たちはコーヒーの商業的な側面について、あまりよく知りませんでした。開発への取り組みの一環として、私たちが現地のコミュニティーの力や自治を強めることにかかわり、たくさんのコーヒーが育てられていることや、コーヒーが不安定な価格で多国籍企業に買い取られている事実を知ったのです。地元の人がコーヒーの赤い実の適正な価格を手に入れられるように、私たちが仲を取り持つことができないか考えました。

私たちは、プロジェクト・マネジャーを地元の人から選び、村人からのコーヒーの購入を一任しました。その年は、うまくいきませんでした。そこで、新たなアプローチをとることにしました。地元の若者対象に、コーヒー精製のワークショップを開催しました。そこでは、品質管理についての研修を行いました。コミュニティーからの参加も増え、コーヒー農家とのフェアトレードが始まりました。このプロジェクトのカウンセラーであった村長も含め、地元コミュニティーをまとめました。コーヒー・プロジェクトを通して、YMCAと村人をよい協力関係にしたいという考えがあったからです。彼らは質の良いコーヒーを生産し、私たちが適正な価格で買い取りました。

最初の村人の反応はいかがでしたか？

私たちのアプローチは、他の NGO とは異なる方法でした。お金だけが最も重要なファクターなのではなく、最も重要な

のはコーヒーの品質であると伝えました。上質なコーヒーがプロジェクトを通して違いをもたらし、それによってプロジェクトにかかわるすべての関係者や当事者にウィン・ウインの関係をもたらすのです。つまり、収入のみならず、品質管理がとて重要ということです。農民たちは自身の収入を増やすために懸命に働くでしょうし、また、彼ら自身の手によってコミュニティも発達するでしょう。農民のほとんどが自分がつくったコーヒーを売っていますが、誰がそのコーヒーを飲んでいるのか知りませんでした。ピース・コーヒー・プロジェクトを通してYMCAが、コーヒーの生産者と消費者をつなげました。

このプロジェクトはどのようにして人々を変えたのですか？

最初は、日々のチェックやメンテナンスなどの様子から考えると、彼らはプロジェクトに真剣に取り組んでいませんでした。この協働事業を管理するため、YMCAは若者や指導的なグループを組織しました。ロトウトゥは山の上にあるため、とても遠隔地にあり、プロジェクトが始まったとき若者を探すのに苦労しました。しかし、このコーヒー・プロジェクトによってお金を稼げると知った若者たちは村に戻ってきました。

農民が協力的だったのはどんな点ですか？

以前は、東ティモールでコーヒーを売る際、農民たちは多国籍企業に搾取されていました。品質がよくなかったため、コーヒーに高い値段がつきませんでした。YMCAは村の共同体をつくり、コーヒー・ビジネスのために農民たちがその共同体に加入しました。それによって、コーヒーの価格を設定する際意思決定権を得ることができ、徐々に多国籍企業に立ち向かえるようになりました。共同体は、信頼醸成のプロセスなのです。共同体に属する人々は、一緒に働くことや相互信頼を築くことをお互いから学び合っています。

どのようにコーヒー・プロジェクトがコミュニティに利益をもたらしたのですか？

コーヒーを売った後、売れたコーヒー1kgあたり10セントを「共同基金」に預けることにしています。5つの村には、5つのグループがありますが、ひとつの共同体としてまとめました。コミュニティのリーダーとYMCAが村人とともに、どのように基金を用いるのかを決めます。2011年のそれぞれのグループの基金は800USドルでしたが、彼らの方針によって、コミュニティの学校のために家具を買うという支援をしました。2012年には1500ドルを集めることができました。

まだ基金を使っておらず、2012年と2013年の基金は若者の職業訓練学校のために用いたいと計画しています。

農民たちの生活状況はどのように変わったのですか？

以前は、村人たちはコメを食べることができず、トウモロコシや豆だけを食べていました。現在、村人は日々の食事としてコメを食べています。家を修繕することができ、彼らは携帯電話を手にすることができました。YMCAはクリニックを提供し、女性たちがそのクリニックを運営できるよう研修を行いました。YMCAは中学校の建設を始め、コミュニティのためにソーラー・エネルギーの供給を始めました。なぜなら、5つの村に1つの小学校しかなかったからです。5つの村はコミュニティから、中学校を建設するための建築資材を提供されました。彼ら自身によってこのようなことが行われるとは、本当に素晴らしいことです。

村人とプロジェクトを始めたとき、現在を比較して、見ら人たちはYMCAをどのように思っていますか？

初めは、彼らはYMCAを単なる宣教師の集団か企業だと思っていました。今では、YMCAが他のNGOと異なると理解しています。彼らは、YMCAでは人がもっとも大切なのだと言い、自分たち自身をコミュニティ内で重要な役割を担うYMCAにかかわる人であるとみなしているようです。



グローバル・オルタナティブ・ツーリズム・ネットワーク
メンター・地域代表者 評価会
Chan Beng Seng



グローバル・オルタナティブ・ツーリズム・ネットワーク (GATN) のメンターおよびアジア・太平洋地域代表者による評価会が2013年9月14日～18日、カンボジア・プノンペンで開催されました。GATN タスク・フォースが集い、プログラムを評価し、また、今後さらにプログラムを改善するためにはどのようにしたらよいか探り、戦略化しました。幸運なことに、ドイツの団体、ツーリズム・ウォッチ (Tourism Watch) とブレッド・フォー・ザ・ワールド (Bread for the World) から Antje Monshausen 氏と Annegret Zimmermann 氏がこの会議に参加しました。

APAY 総主事の山田公平が参加者への歓迎の言葉の中で、オルタナティブ・ツーリズムのプログラムが若者を地球市民として育成し、リーダーシップの形成に貢献するという参加者への期待を述べました。カンボジアYMCA 総主事 Bunthok Deth 氏の歓迎の挨拶では、オルタナティブ・ツーリズムの拠点の開発を懸命に行っていることが伝えられ、滞在中楽しんで過ごしてほしいと述べられました。

GATN のアドバイザー、Caesar D' Mello 氏は、朝の礼拝と GATN のためのオルタナティブ・ツーリズムの現状と課題に関する話を担当しました。続いて Monshausen 氏から「ツーリズムと人権」、Zimmermann 氏から「ツーリズムと気候変動」に関する話がなされました。

GATN タスク・フォースのメンバーは、オルタナティブ・ツーリズムの経験や専門性に関する議論も深めました。オルタナティブ・ツーリズムの拠点の開発・管理の経験からのケース・スタディーを行った人たちもいました。また、ス

タディー・ツアーや奉仕活動プログラムに若者グループを派遣した経験からのケース・スタディーを行った人たちもいました。このようなケース・スタディーのシェアによって私たちは、プログラムのさらなる改善のためのインプットを得ることができました。

この会議のハイライトのひとつは、GATN 円卓会議でした。定期的にユースのグループをスタディー・ツアーや奉仕活動プログラムに派遣しているYMCAの代表者も、この円卓会議に出席しました。円卓会議の目的は、派遣元YMCAに、オルタナティブ・ツーリズム・ネットワークで特別でユニークな拠点が開発されていることを知ってもらうこと、そしてそれらの拠点が派遣元YMCAのニーズに合わせ、そのニーズに合ったものを提供するためには、さらにどのように開発されたらよいかフィードバックを得るためでした。



もうひとつのハイライトは、カンボジアYMCAによって開発されている、オルタナティブ・ツーリズムの拠点を訪問することでした。プノンペン市内から30分ほど郊外にある学校を訪ねました。この学校では、生徒とともに教室にペンキを塗ったり、英会話の授業を行ったりというさまざまなプロジェクトに、海外からの訪問者が参加しているとのことでした。私たちはまた、村に行き、海外からのオルタナティブ・ツーリズムの参加者がホームステイする家を訪ねました。訪問の最後には、コミュニティーの人々と夕食をともし、村人たちと文化交流を行いました。

会議では、さらにオルタナティブ・ツーリズムのプログラムを広め、よりよくしていくには、各国YMCAレベルでトレーニング・ワークショップを行う必要があるという結論にいたりしました。また、APAY に対しても、オルタナティブ・ツーリズムの手本となるような、実験的なスタディー・ツアーを

開始し、各地のYMCAがオルタナティブ・ツーリズムを始動できるように働きかける必要があると提案されました。

ユースからの声
アジア・太平洋地域のチェンジ・エージェント紹介

ユースが表現します！

Karisma Das(インド)



私は、インド・ビハール州のパटनाYMCAの代表に選ばれ、YMCAユース・カンファレンス 2013 に参加しました！学校に感謝しています。なぜなら、このカンファレンスに参加したため2つのテストの受験を延期することができたからです。アジア・太平洋地域での活動に参加できたことは、一生ものの経験になりました。

「友情、文化の追求、ソーシャル・アクションを祝って」がカンファレンスのテーマでした。とてもインタラクティブで素晴らしいものでした。私たちは、とにかく質問するよう言われました。私はとても忠実にその指示に従ったことで、疑念や誤解を晴らすことができたと言っても過言ではありません。いちばん興味深かったのは、他の国から来た人からの話を聞き、彼らの物の見方を知ることでした。元気が出るような活動、歌、キャンプファイヤー、文化交流やアクティビティーもありました。参加者の皆は、「這いつくばって登った」トレッキングを忘れることができないと思います。几帳面で熱心で、「愛らしい」事務局の方々への感謝も忘れることができません。パटनाYMCAのChristopher Bachman 総主事と、YMCAのプロフェッショナルリズムへも感謝します。

カンファレンスは、新たな経験となりました。新しい友だちをつくり、他の文化の民族性や美しさを称賛することを学び、社会正義のためのアクションを行う方法を探りました。YMCAにおける重要な考え方、つまりキリストの考え方を肝に銘じています。このカンファレンスで、私のYMCAへの愛は深まり、YMCA運動への支持をこれからも続けることが確かになりました。

香港キャンパスYMCA 年次総会

Tina Ngai(香港)



ユース・ムーブメントを達成するには、情熱を持ち続けることがとても大切です。2013年9月7日に香港 Campus YMCAの年次総会を開くことができ、また次期委員会の選挙が行われたのを目の当たりにすることができ、とてもうれしいです。2013年～2014年の委員会は、異なる大学に所属する14人の情熱的なユースによって構成されています。

新たに選ばれた委員は、例えば香港 Campus Y と香港YMCA共催の国際ユース・シンポジウムへの準備で示されているように、コミュニティとユース・エンパワーメントに奉仕すること、よい働きを続けることができると信じています。シンポジウムは2013年12月28日～2014年1月2日まで行われ、現在参加者を募集しています。

平等な世界に向けたユース参画

Udara Devmee Perera(スリランカ)



スリランカ・パヌムガマYMCAの国際関係ユース (International Committed Youth: ICY) グループとノルウェー・オスロYMCAは、2013年8月15日～18日、ベラガラにて、7年連続となる国際セミナーを行いました。

とてもモチベーションの高いグループだったため、深い議論をし、難しい問題について考えることに時間を使いました。このセミナーこそ本物の変化であり、エンパワーメントのプロセスであったため、高いモチベーションや強い情熱だけでなく、混乱に陥り、フラストレーションがたまることがありました。パムヌガMYMCAのICYグループの26人のユース代表に加え、オスロYMCAのICYグループ、スリランカ(マータラとモラトゥワ)のYMCAの2人がこのイベントに招待されました。テーマは「平等な世界を目指したユース参画」でした。セミナー中、平等な世界や、平等な世界を広げるためのユース参画の多くの要素について、考えをめぐらせました。グループでは、参加者が平等な世界を目指して行動に関与するというセミナーの目標を達成するため、ディスカッション、意見交換、ケース・スタディーを行いました。

グリーン・チャレンジ フォト/ビデオコンテスト
Alvin Kan(香港)

アジア・太平洋地域の環境保護キャンペーンに参加しましょう！

環境に関するイベントをコミュニティで行い、グリーン・フォト/ビデオコンテストに参加しましょう。

YMCAグリーン・チャレンジの目的は、環境によい活動を行い、ユースが社会への責任に気づき、このような活動を通してさらに多くのユースをYMCAに引き付けることです。環境に良いテーマを広めて、さまざまな活動を行っている時に、できるだけ「環境によい」写真やビデオを送ってください。

APAY ユース委員会/チェンジ・エージェント Facebook ページにできるだけたくさんの写真を送ってください。写真とビデオの2部門あります。2013年10月18日～11月30日までの期間、それぞれの部門でもっとも「いいね」が多かった作品に、2014年3月のAPAY常務委員会にて賞が授与されます。このグリーン・メッセージをみんなに知らせてください！



APAY ユース委員会/チェンジ・エージェント Facebook ページ
https://www.facebook.com/pages/APAY-Youth-Committee-YPLD-and-Change-Agents/508521019162451?sk=photos_albums

ユース・エンパワーメントに関するストーリー募集
Alvin Kan(香港)

自分のユース・エンパワーメントに関するストーリーや自分のコミュニティでのYMCAの活動を紹介したいユースは、APAY ユース委員会に遠慮なくメールをください。皆で経験をシェアしましょう！



発行元
アジア・太平洋YMCA同盟
Asia and Pacific Alliance of YMCAs
23 Waterloo Road, 6th floor, Kowloon, Hong Kong
tel. 852-2780 8347, 2770 3168, 2783 3058; fax 852- 2385 4692
e-mail: office@asiapacificymca.org